

Ananias Charles Littleton 年譜

渡 辺 和 夫

1886年（明治19年）

12月4日、Robert および Mary (Sholtey) Littleton の息子としてイリノイ州 Bloomington に生まれる。

1905年（明治38年）19歳

Bloomington 高校を卒業。高校では英文学と作文に興味をもち、数学や科学には関心がなかったという。卒業後、大学での学資を得るために Chicago and Alton Railroad の電信技師として2年間働いた。通常、夜間勤務であり、鉄道電信技師の技術はおじさんから学んだ。

1907年（明治40年）21歳

イリノイ大学に入学。鉄道に従事していたおじさんと父親の影響により、最初は railway administration を勉強しようと考えた。1年のときには英文学、ドイツ詩、経済史により多くの興味をもった。

1908年（明治41年）22歳

大学2年のとき、同じ部屋で生活するシカゴ出身の2人の学生から比較的新しい職業である公認会計士のことを知る。以来、会計の勉強に焦点を合わせるようになった。

1912年（明治45年・大正元年）26歳

Delta Kappa Chi (1913年に他の2団体と合併して Beta Gamma Sigma になる) に選ばれた。

イリノイ大学を卒業。

シカゴの会計事務所、Deloitte, Plender, Griffith and Co. に入所

原稿受領日 1985年4月25日

(—1915年)。

1913年(大正2年) 27歳

新組織 Beta Gamma Sigma で使うために Delta Kappa Chi の歴史を編纂。

1915年(大正4年) 29歳

Hiram T. Scovill の招きによりイリノイ大学商学部 (College of Commerce) の講師になる (—1918年)。Scovill は会計事務所における上司であり、1913年に大学に戻っていた。

1916年(大正5年) 30歳

8月21日、インジアナ州 Terre Haute の Bonnie Ray と結婚。Barbara と Robert Scott の2人の子供をもうけた。

1918年(大正7年) 32歳

イリノイ大学より経済学修士の学位を取得。

1919年(大正8年) 33歳

イリノイ州公認会計士の免許 (Number 229) を取得。

11月26日、名誉会員として Beta Alpha Psi に加入。この組織は、Scovill と11名の学生によって1919年2月12日に発足した。副会長、第三代会長 (1927年—29年) などを歴任。

最初の著書、*An Introduction to Elementary Accounting* を公刊。

1919年—20年度のイリノイ大学会計学コースにおける担当科目は、Principles of Accounting, Advanced Accounting, Cost Accounting and Systems であった。

1920年(大正9年) 34歳

1月、イリノイ大学評議員会 (Board of Trustees) から商学部の初代 assistant Dean に任命された (—1922年)。

助教授に昇進 (—1924年)。

1921年(大正10年) 35歳

Scovill の要請にもとづきイリノイ大学で最初の大学院会計コースを創設。

1922年（大正11年）36歳

商学部経済・経営研究所（Bureau of Economic and Business Research）の assistant director となり（-1941年）、20年間この職にあった。

12月29日、シカゴで開催されたアメリカ大学会計教師協会（American Association of University Instructors in Accounting）第7回大会において、“An Appraisal of the Balance Sheet Approach” について報告した。この報告は1923年4月に発行された *Papers and Proceedings* に収録されている。

1923年（大正12年）37歳

12月29日、コロンバスで開催されたアメリカ大学会計教師協会第8回大会において報告された H. R. Hatfield の “An Historical Defense of Bookkeeping” に感銘し、会計の歴史に対する強い関心をもった。この報告は1924年6月に発行された *Papers and Proceedings* に収録されている。

1924年（大正13年）38歳

12月31日、シカゴで開催されたアメリカ大学会計教師協会第9回大会において、“The Relation of Accounting to the Business Cycle” について報告した。この報告は1925年2月に発行された *Papers and Proceedings* に収録されている。

1925年（大正14年）39歳

准教授に昇進（-1930年）。

12月、イリノイ州公認会計士協会に加入（-1932年；1937年-50年）。教育委員会委員（1939年）、同委員会委員長（1940年-41年）、イリノイ州会計史研究委員会委員（1940年）として活動した。

1926年（大正15年・昭和元年）40歳

6月，“Italian Double Entry in Early England”（*Accounting Review*）。

8月，“The 2 to 1 Ratio Analyzed”（*Certified Public Accountant*）。

12月，“Evolution of the Ledger Account”（*A. R.*）。

1927年（昭和2年）41歳

6月, "The Antecedents of Double-entry" (A. R.)。

1928年（昭和3年）42歳

6月, "Paciolo and Modern Accounting" (A. R.)。

9月, "What is Profit?" (A. R.)。

12月, "The Evolution of the Journal Entry" (A. R.)。

1929年（昭和4年）43歳

9月, "Value and Price in Accounting" (A. R.)。

1930年（昭和5年）44歳

12月, クリーブランドで開催されたアメリカ大学会計教師協会第15回大会において, "A Cost Approach to Elementary Accounting" について報告した。

1931年（昭和6年）45歳

3月, "A Cost Approach to Elementary Bookkeeping" (A. R.)。

6月, "The Historical Foundations of Modern Accounting" (1933年に刊行された *Accounting Evolution to 1900* の基礎になった) により経済学博士の学位を取得。

9月, "Early Transaction Analysis" (A. R.)。

教授に昇進 (-1952年)。

1932年（昭和7年）46歳

12月, "Capital and Surplus" (A. R.)。

1933年（昭和8年）47歳

Accounting Evolution to 1900 [片野一郎訳『会計発達史』1952年（昭和27年）, 増補版1978年（昭和53年）] を公刊。

8月, "Capital Flexibility" (*Journal of Accountancy*)。

10月, "Social Origins of Modern Accountancy" (*J. of A.*)。

12月, "Socialized Accounts" (A. R.)。

12月28日, フィラデルフィアで開催されたアメリカ大学会計教師協会第18回

大会において、“Accounting Evolution: Third Stage” について報告した。

1934年（昭和9年）48歳

『会計発達史』に対して第6回 Beta Alpha Psi 賞が贈られた。この賞は最も重要な会計文献に贈られる目的で1928年に創設されたものであり、第1回の受賞者は H. R. Hatfield であった。会計史が研究分野として認知されたことをリトルトンは喜んだ。

3月, “Socialized Accounts (II)” (A. R.)。

6月, “The Dividend Base” (A. R.)。

12月, “Dividends Presuppose Profits” (A. R.)。

1935年（昭和10年）49歳

4月, “Auditor Independence” (*J. of A.*)。

9月, “Value or Cost” (A. R.)。

12月27日、ニューヨークで開催されたアメリカ大学会計教師協会第20回大会において、“Changing Theories of Income” について報告した。また同大会において、アメリカ会計学会 (American Accounting Association) への実質的な改組に賛成するスピーチを行なった。形式的には同年11月にアメリカ会計学会はすでに別組織として創設されており、合併手続がとられた。

1936年（昭和11年）50歳

アメリカ会計学会副会長および研究部長（1936年-37年は Assistant, 1938年は Acting, 1939年-42年は Co-Director）に選任された。

3月, “Contrasting Theories of Profit” (A. R.)。

6月, アメリカ会計学会常務委員会 (Executive Committee) の一員として “A Tentative Statement of Accounting Principles Affecting Corporate Reports” (会社報告諸表会計原則試案) の作成に参加した。

6月, “The Professional College” (A. R.)。

9月, リトルトンの尽力によりイリノイ大学大学院から会計学の博士課程が認められた。これは合衆国における会計学の最初の博士課程であり、その第1号は1939年6月に与えられた。

9月, “H. W. Sweeney, Stabilized Accounting” (A. R. 書評)。

12月29日, シカゴで開催されたアメリカ会計学会第21回大会において, “Concepts of Capital and Income Underlying Accounting” について報告した。この報告は, 1937年3月, “Concepts of Income Underlying Accounting” (A. R.) として公表された。

1937年(昭和12年) 51歳

秋, “Business Profits as a Legal Basis for Dividends” (*Harvard Business Review*)。

1938年(昭和13年) 52歳

3月, “Tests for Principles” (A. R.)。

8月, “High Standards of Accounting” (*J. of A.*)。

9月, “The Relation of Function to Principles” (A. R.)。

秋, “A Substitute for Stated Capital” (*H. B. R.*)。

12月30日, デトロイトで開催されたアメリカ会計学会第23回大会において, “Revision of the Tentative Statement of Accounting Principles” について報告した。この報告は, 1939年3月, “Suggestions for the Revision of the Tentative Statement of Accounting Principles” (A. R.) として公表された。

1939年(昭和14年) 53歳

アメリカ会計士協会 (American Institute of Accountants; 現在のアメリカ公認会計士協会) 会計手続委員会のメンバーになる (-1941年)。この委員会は1939年に22名 (のちに21名に引き下げられた) に拡大改組され, 会計原則の設定機関としての役割をになった。このほか同協会の人事委員会 (Committee on Selection of Personnel) (1943年-47年) および会計史委員会 (1946年-47年, 1948年-49年) に所属した。

4月, “The Uses of Theory” (*J. of A.*)。

1940年(昭和15年) 54歳

1月, “The Integration of Income and Surplus Statements” (*J.*

of A.)。

2月, W. A. Paton との共著, *An Introduction to Corporate Accounting Standards* [中島省吾訳『会社会計基準序説』1953年(昭和28年), 改訳版1958年(昭和33年)]を公刊。本書は, リトルトンの草案をペイトンが全面的に書き直し, 常務委員会のメンバーによる批判検討をへて完成したものだといわれている。

12月27日, シカゴで開催されたアメリカ会計学会第25回大会において, “Inventories” について報告した。

1941年(昭和16年) 55歳

6月, アメリカ会計学会は1936年版会計原則を改訂し, “Accounting Principles Underlying Corporate Financial Statements” (会社財務諸表会計原則)を公表した。常務委員会のメンバーだったリトルトンは, Kohler, Paton, Greer とともにその作成の中心的な役割をはたした。

6月, “A Genealogy for ‘Cost or Market’” (*A. R.*)。

7月, “Inventory Variations” (*J. of A.*)。

12月, “Questions on Accounting Standards” (*A. R.*)。

12月30日, ニューヨークで開催されたアメリカ会計学会第26回大会において, 会計原則をテーマとする円卓討論の座長をつとめた。

1942年(昭和17年) 56歳

7月, “The Meaning of Accounting Education” (*A. R.*)。

8月, “Auditing Techniques” (*J. of A.*)。

1943年(昭和18年) 57歳

アメリカ会計学会会長。同学会の機関誌 *The Accounting Review* の編集委員長(—1946年)。

The Accounting Review 誌の4月号から *The Accounting Exchange* 欄の執筆を担当し, 1947年1月号までの15回にわたり会計教育の問題を広範に論じた。この欄は1929年6月号から Kohler によって開始された。

10月, “Examinations in Auditing” (*A. R.*)。

1944年（昭和19年）58歳

12月，“Occupational Levels in Public Accounting”（*J. of A.*）。

1946年（昭和21年）60歳

7月，“G. O. May, Financial Accounting”（*A. R.* 書評）。

シカゴで戦後再開されたアメリカ会計学会の大会において，“Problems in Education”について報告した。この報告は、同年10月，“Guidance Tests for Accounting Students”（*A. R.*）として公表された。

1947年（昭和22年）61歳

4月，“Three Audit Principles”（*J. of A.*）。

1948年（昭和23年）62歳

7月，“Extension of Accrual Principles Would Help Depreciation Accounting”（*J. of A.*）。

11月，“Inventory Disclosures”（*New York Certified Public Accountant*）。

1949年（昭和24年）63歳

7月，“Classified Objectives”（*A. R.*）。

1950年（昭和25年）64歳

8月，“Inductive Reasoning in Accounting”（*N. Y. C. P. A.*）。

11月，“Inductive Reasoning in Accounting（II）”（*N. Y. C. P. A.*）。

1951年（昭和26年）65歳

9月7日、デンバーで開催されたアメリカ会計学会の大会において，“The Meaning of Historical Cost”について報告した。この報告は、1952年4月，“Significance of Invested Cost”（*A. R.*）として公表された。

1952年（昭和27年）66歳

4月，“Characteristics of a Profession”（*N. Y. C. P. A.*）。

9月1日、37年間勤務したイリノイ大学を退職。名誉教授。退職記念晩餐会には100名が出席した。

11月、イリノイ大学商学部創立50周年記念にさいして、功勞者7人のうちのひとりとして表彰を受けた。

1953年（昭和28年）67歳

Structure of Accounting Theory [大塚俊郎訳『会計理論の構造』1955年（昭和30年）] を公刊。

1月，“A Reply”（A. R.）。この論文は、G. O. May が1952年10月に発表した“Limitations on the Significance of Invested Cost”（A. R.）に対する反論である。

7月，“Variety in the Concept of Income”（N. Y. C. P. A.）。

1954年（昭和29年）68歳

1月，“Principles Under Challenge”（N. Y. C. P. A.）。

4月，“Old and New in Management and Accounting”（A. R.）。

8月31日、会計に対する多大の貢献を理由に Alpha Kappa Psi から年間賞が贈られた。

11月，“But Is It Accounting?”（N. Y. C. P. A.）。

1955年（昭和30年）69歳

1月，“The Logic of Accounts”（A. R.）。

3月，“Prestige for Historical Cost”（*Illinois Certified Public Accountant*）。

1956年（昭和31年）70歳

B. S. Yamey との共編により、*Studies in the History of Accounting* を公刊。

5月、Ohio State University 会計学部における第18回年次総会において会計名誉殿堂（Accounting Hall of Fame）入りが決定された。会計名誉殿堂は、会計の分野で著しい貢献をした北米人を対象に1950年に設定されたものであり、45人から成る指名推薦委員会によって管理されている。

7月，“Choice Among Alternatives”（A. R.）。この論文に対して、R. J. Chambers は、1957年4月，“Detail for a Blueprint”（A. R.）

という反論を寄せている。

1958年（昭和33年）72歳

4月，“Accounting Rediscovered”（A. R.）。

4月，“The Search for Accounting Principles”（N. Y. C. P. A.）。

1961年（昭和36年）75歳

論文集，*Essays on Accountancy* を公刊。

1962年（昭和37年）76歳

V. K. Zimmerman との共著，*Accounting Theory: Continuity and Change* [上田雅通訳『会計理論——連続と変化——』1976年（昭和51年）] を公刊。

7月，“M. Moonitz, The Basic Postulates of Accounting”（A. R. 書評）。

10月1日，イリノイ大学で開催された第1回国際会計教育会議（International Conference on Accounting Education）において，“The Purpose of Accounting Education” について報告した。この論文は，*Proceedings International Conference on Accounting Education* に収録されている。

1963年（昭和38年）77歳

1月，“R. T. Sprouse and M. Moonitz, A Tentative Set of Broad Accounting Principles for Business Enterprises”（A. R. 書評）。

1965年（昭和40年）79歳

M. Moonitz との共編により，*Significant Accounting Essays* を公刊。

秋，“The Continuing Importance of Basic Concepts”（*International Journal of Accounting*）。

1966年（昭和41年）80歳

秋，“The Significance of Interrelated Concepts in Accounting”

(*I. J. of A.*)。

1967年（昭和42年）81歳

5月12日，Center for International Education and Research in Accounting 主催の国際会計セミナーに続いて開かれた晩餐会において，イリノイ大学から名誉法学博士号が授与された。

1968年（昭和43年）82歳

1968年－69年度のイリノイ大学における初代 Weldon Powell Memorial 教授に指名された。

1970年（昭和45年）84歳

7月，“Factors Limiting Accounting” (*A. R.*)。

1974年（昭和49年）

1月13日，87歳で逝去。

参考文献

- Buckner, K. T. C., *A Study of Littleton's Contribution to Selected Areas of the Theory of Accountancy*, D. B. A. Dissertation, 1971.
- Carey, J. L., *The Rise of the Accounting Profession: To Responsibility and Authority 1937-1969*, A. I. C. P. A., 1970.
- Gaffikin, M. J. R. and Aitken, M. J., ed., *The Development of Accounting Theory: Significant Contributors to Accounting Thought in the 20th Century*, Garland Publishing, Inc., 1982.
- Heckert, J. B., "Accounting Hall of Fame," *Accounting Review*, July 1950, pp. 260-261.
- Sheldahl, T. K., *Beta Alpha Psi, from Alpha to Omega: Pursuing a Vision of Professional Education for Accountants 1919-1945*, Garland Publishing, Inc., 1982.
- Zeiff, S. A., *The American Accounting Association: Its First 50 Years*, A. A. A., 1966.
- , *Forging Accounting Principles in Five Countries: A History and an Analysis of Trends*, Stipes Publishing Company, 1972.
- Zimmerman, V. K., "The Long Shadow of a Scholar," *International Journal of Accounting*, Spring 1967, pp. 1-20.
- "The American Association of University Instructors in Accounting, Program of fifteenth Annual Convention," *Accounting Review*, December 1930, p. 341.
- "University Notes," *Accounting Review*, June 1931, p. 158.
- "Convention Report," *Accounting Review*, March 1934, pp. 90-93.
- "University Notes," *Accounting Review*, March 1935, p. 130.
- "Convention Report," *Accounting Review*, March 1936, pp. 74-79.
- "University Notes," *Accounting Review*, June 1936, p. 207.
- "American Accounting Association, 21st Annual Meeting," *Accounting Review*, December 1936, p. 410.
- "Convention Report," *Accounting Review*, March 1939, pp. 76-82.
- "Convention Report," *Accounting Review*, March 1941, pp. 87-93.
- "Convention Report," *Accounting Review*, January 1942, pp. 67-72.
- "Announcing 1951 Annual Convention of the American Accounting Association," *Accounting Review*, July 1951, p. 446.
- "A. C. Littleton: Accounting Ideas are Fun," *Journal of Accountancy*, June 1956, p. 6.